

第 54 期

事業報告

(2022年度)

自 2022年 4 月 1 日
至 2023年 3 月 31 日



公益財団法人
内藤記念科学振興財団

〔 I 〕 第54期（2022年度）事業概要

内藤記念科学振興財団は、1969年4月7日付け、委大第4の1号をもって文部大臣より設立の許可を受けて、定款に定められた諸事業を開始した。2022年4月1日から2023年3月31日に至る第54期（2022年度）の事業活動として、定款第3条に掲げる、「人類の疾病の予防と治療に関する自然科学」の研究を奨励し、もって学術の振興と人類の福祉に寄与することを目的として、定款第4条に基づき下記の諸事業を行った。

1. 第54期（2022年度）の事業について

2022年度は、以下の事業を実施した。

（1）公募事業

① 科学振興賞（褒賞）（定款第4条第1項第2号）

科学振興賞は、当財団が定めた日本遺伝学会ほか計32の学会（長）、ならびに当財団の理事・監事・評議員に候補者の推薦を依頼し、14件の候補を受け付け、選考委員会で審査した後、理事会において受賞1件を決定した。

② 科学奨励金・研究助成（定款第4条第1項第1号）

科学奨励金・研究助成は、320件の申請を受け付け、99件を採択した。

③ 科学奨励金・若手ステップアップ研究助成（定款第4条第1項第1号）

科学奨励金・若手ステップアップ研究助成は2020年度を以って募集を停止したが、2020年度からの継続分3件を助成した。

④ 女性研究者研究助成金（定款第4条第1項第1号）

女性研究者研究助成金は、出産や育児によって研究を中断した女性研究者の研究職場への復帰と研究業績向上の支援を目的として設立された。2022年度は71件の申請を受け付け、20件を採択した。2020年度からの継続分18件、および2021年度からの継続分20件を合わせ、合計58件を助成した。

⑤ 次世代育成支援研究助成金（定款第4条第1項第1号）

2016年度より、次世代の基礎研究者育成を支援するため、新たに次世代育成支援研究助成金を創設した。本年度は146件の申請を受け付け、15件を採択した。2020年度の継続分10件、および2021年度からの継続分20件を合わせ、合計45件を助成した。

⑥ 海外研究留学助成金（定款第4条第1項第4号）

海外研究留学助成金は、86件の申請を受け付け、7件を採択した。

⑦ 海外学者招聘助成金（定款第4条第1項第5号）

海外学者招聘助成金は、10件の申請を受け付け、9件を採択した。

以上、②～⑦までの6事業については、全国の国立・公立・私立大学など700余の自然科学系研究機関の長、ならびに当財団の理事・監事・評議員に候補者の推薦を依頼した。なお、⑦の海外学者招聘助成金については、このほかに当財団が定めた32学会（長）にも推薦を依頼した。受領者の採択は、選考委員会での審査・選考を経た後、理事会で決定されたものである。

⑧ 講演助成金（定款第4条第1項第7号）

当財団が定めた32の学会（長）、ならびに当財団の理事・監事・評議員に候補者の推薦を依頼し、国際会議の開催時期に応じて、四半期毎に年4回申請を受理した結果、13件を受け付け、選考分担理事4名および選考委員長で構成される審査会で審議の上、常務理事が決裁し、11件を採択した。

公募助成金の応募件数と採択件数、2022年度助成金額は次のとおりである。

褒賞および助成金の実績

| 科 目 | 申請数 | 採択件数 | 採択率 | 予 算 | 贈呈額 |
|---------------------------------------|-----------------|----------------|-----|-------------------------|-------------------------|
| 科学振興賞（含金メダル） | 14 ^件 | 1 ^件 | 7% | 10,800,000 ^円 | 11,073,380 ^円 |
| 科学奨励金・研究助成 | 320 | 99 | 30 | 300,000,000 | 297,000,000 |
| 科学奨励金・若手ステップアップ研究助成 （2020年度からの継続分） | 3 | 3 | 100 | 9,740,000 | 9,740,000 |
| 女性研究者研究助成金 （2021年度からの継続分） | 71 | 20 | 28 | 118,000,000 | 40,000,000 |
| （2020年度からの継続分） | 20 | 20 | 100 | | 40,000,000 |
| （2020年度からの継続分） | 18 | 18 | 100 | | 36,000,000 |
| 次世代育成支援研究助成金 （2021年度からの継続分） | 146 | 15 | 10 | 90,000,000 | 30,000,000 |
| （2021年度からの継続分） | 20 | 20 | 100 | | 40,000,000 |
| （2020年度からの継続分） | 10 | 10 | 100 | | 20,000,000 |
| 海外研究留学助成金 | 86 | 7 | 8 | 84,000,000 | 49,000,000 |
| 海外学者招聘助成金 | 10 | 9 | 90 | 10,000,000 | 5,100,000 |
| 講演助成金 | 13 | 11 | 84 | 11,500,000 | 5,500,000 |
| 合 計 | 731 | 233 | 31 | 634,040,000 | 583,413,380 |

※過年度採択分および学会開催延期等により、正味財産増減計算書の合計額とは一致しない。

以上、公募9事業において、申請731件に対して233件を採択し、総額583,413,380円を助成した。なお、上記助成額に加えて、次世代育成支援研究助成金は1億円、女性研究者研究助成金は1億2,000万円の次年度以降の支払いが、すでに確定している。

（2）助成事業以外の事業

① 講演事業（定款第4条第1項第7号）

a. 2022年度の内藤コンファレンス

2022年度の内藤コンファレンスは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2021年度第3回理事会にて、すべて2023年度以降に延期することが決議された。その開催準備費用として3万円を支出した。

b. 第49回内藤コンファレンスの開催準備

2023年7月4日（火）午後から7月7日（金）正午まで、北海道札幌市 シャトレゼガトーキングダム サッポロにおいて、第49回内藤コンファレンス『微小管・分子モーター研究の最前線－分子構造から細胞機能、個体、疾患まで－』を開催するため、組織委員会を編成しプログラムをまとめた。

c. 第50回内藤コンファレンスの開催準備

2023年10月10日（火）午後から10月13日（金）正午まで、北海道札幌市 シャトレーゼガトーキングダム サッポロにおいて、第50回内藤コンファレンス『グリア細胞が先導する脳機能』を開催するため、組織委員会を編成しプログラムをまとめた。

② 内藤記念くすり博物館での企画展示（定款第4条第1項第6号）

理事会での承認を得て、内藤記念くすり博物館での資料収集・展示事業として企画展『ウイルスの世界～発見から2021年新型コロナウイルス～』を開催し、開催費用として397万円を支出した。

③ 広報誌「内藤財団時報」の発行（定款第4条第1項第8号）

本誌発行の目的は、当財団の設立趣旨と研究助成事業等の活動内容を公表し、大学・研究機関等およびご支援を受けた寄附者などの多くの関係者に、当財団への理解を促すとともに、定期的に活動内容のレビューを行うことにより、多方面からの継続的な支援を願うことにある。

第110号（2022年9月13日）および第111号（2023年3月16日）を発行し、寄附者、全国の研究機関、当財団の役員等関係者、助成金受領者、報道関係、他財団等に配布した。

*『内藤財団時報』第110号……………B5判120頁、2,100部、151万円

*『内藤財団時報』第111号……………B5判122頁、2,250部、165万円

合計316万円を支出した。

2. 事業報告附属明細書

2022年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものがない。